

(現代史プリント E - 20M)

現代史用練習問題(03年度末)

1. 「雪解け」とキューバ危機

1953 年、長くソ連および世界の共産主義運動を影響を与えた指導者[1]が死亡、アメリカでも大統領が民主党の[2]大統領から共和党の[3]が大統領にかわる中で東西対話が進みはじめた。7月には朝鮮休戦合意が実現、翌年にはインドシナ戦争の休戦も実現した。こうしたなかで、1955 年には[4]で四巨頭会談がおこなわれ、米・英・仏・ソの4国の首脳が一堂に会した。

当時、ソ連では新たな指導者をめぐり混乱が続いていたが、そうした中で、書記長(第一書記)に就任したのが[5]であった。彼は[6]の打ち上げに成功で科学技術面で西側への優位を確立したとの自信を得、またこの技術をもとに[7]ミサイルを開発、核戦略においてもアメリカと対等な地位を獲得した。国際政策においては[8]をとえ、東西間の[9]政策をすすめることを表明、1959 年には自ら[10]を訪問し、米大統領との間でキャンプデーヴィッド会談を持つに至った。

国内では 1956 年のソ連共産党第20回大会で[11]を行ない、世界の共産主義陣営に衝撃を与えた。また政治犯の釈放、言論統制の緩和などもすすめ、ソ連国民や世界から「雪解け」と歓迎された。しかしこうした急激な方向転換はソ連の衛星国であった[12]諸国に大きな動揺を与えた。[13]ではナジ首相のもとで緩和政策が実施された。しかし、この国の改革がソ連からの離脱を求める動きにかわりつつあることをおそれたソ連がの介入し、国民の抵抗を弾圧し、ナジ首相は逮捕され処刑された。またこの政策を修正主義として批判する中国(共産党)との対立も引き起こした。

1960 年代になると、東西対立は再び激化しはじめた。東ドイツからの[14]に悩むソ連は 1961 年[15]を構築、1962 年の[16]危機で世界は核戦争の寸前に至った。そしてこうした危機を乗り越えた[17]米大統領が 1963 年暗殺され、1964 年の政変でフルシチョフも失脚、ブレジネフが書記長となると東西対話の風潮は弱まり、「冷戦」状態が続いていく。

2. キューバ革命とキューバ危機

カリブ海に浮かぶキューバは、アメリカ資本が地主と結びサトウキビ農場や製糖工場の大部分を支配するアメリカの従属国であり、1940 年以来、パティスタ大統領による独裁支配が続き、農民たちの不満がたまっていた。こうした中、1959 年[18]はゲバラらとともに、ゲリラ戦をすすめ、ついに政権を獲得した。これをキューバ革命という。

彼らは、農地改革を実施し農民に土地を与えたが、これは米人の財産の接収につながり、アメリカとの対立が激化した。こうしたなか、新たに米大統領となった[19]大統領は、1961 年キューバと断交し、亡命キューバ人を使って武力侵攻をはかったが失敗した。これの対抗してカストロは[20]

[21]化を宣言、[21]へ接近、アメリカの侵攻に備えるべく[22]基地建設をすすめた。この事実を知ったアメリカはミサイル基地撤去をめざし、[23]という強硬策にでた。これを[24]という。結局、この危機はソ連の[25]第一書記がミサイルの撤去を決めたことで回避されたが、世界は核戦争寸前の危機をむかえたのである。この時の反省から米ソ両国の首脳の間には直通電話(ホットライン)が引かれ、1963 年には[26]条約が米英ソの間で締結される。

3. ヴェトナム戦争とカンボジア

ヴェトナムでは、共産主義者[27]らがヴェトナム独立同盟(ヴェトミン)を結成してゲリラ戦を繰り広げ、日本敗北直後の 1945 年9 月独立を宣言、植民地支配の回復をめざす[28]を[29]戦争で破り、北緯17度を休戦ラインとし南部は国民投票を実施するという[30]協定を締結した。しかし共産主義の封じ込めをはかろうとしていたアメリカはしこの協定を無視し、国民投票の実施を拒否、1955 年[31]を大統領とするヴェトナム共和国を樹立した。彼はアメリカの全面的な援助のもとに独裁政治をすすめたため、反対する勢力は北ヴェトナムの支援をえて 1960 年[32]を結成、ゲリラ闘争をすすめた。また仏教徒たちは[33]という方法で政府への抗議の意志を表明した。

こうしたなかケネディ暗殺の後を受けて米大統領となった民主党の[34]は 1964 年の[35]事件をきっかけに北ヴェトナムへの爆撃(北爆)を開始、あわせて地上軍の投入に踏み切った。また 1967 年には東南アジアの諸国を結集して南ヴェトナムの支援を強めた。しかし中ソ両国の支援を受けた解放戦線と北ヴェトナムの激しい抵抗によって戦争はしだいに泥沼化し、アメリカ内外で反対運動が激化し、財政面でも困難を生じた。しかも 1968 年解放戦線のテト攻勢によって一時大使館が占拠されるといった事態が発生、ジョンソンは次期大統領選出馬を断念し、北爆停止と[36]パリ]和平会談を開始した。

かわって大統領となった共和党の[37]は戦争の米軍の部分的撤退と米兵の役割を[38]に肩代わりさせる方向をめざしたが、うまくいかず、北爆を再開するとともにヴェトナム軍の補給路となっているラオス・[39]に戦線を拡大、戦争はインドシナ全土に広がった。1973 年、[40]協定が調印され、米軍はヴェトナムから完全に撤退し、ラオスにおいても和平が実現した。そして 1975 年になると北ヴェトナム軍と解放戦線は一気に攻勢に転じ、ついに[41]の町を占領し、翌 1976 年にはヴェトナム統一を完成させ、ヴェトナム社会主義共和国が成立した(首都ハノイ)。